九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

ベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーター養成のための「コ・ファシリテーター方式」の事例研究 ： 「コンビネーション」に着目して

金, 奎卓
九州大学大学院人間環境学府

野島, 一彦
九州大学大学院人間環境学研究院

https://doi.org/10.15017/3573

出版情報：九州大学心理学研究. 5, pp.89-96, 2004-03-31. 九州大学大学院人間環境学研究院
バージョン：
権利関係：

Kyushu University Psychological Research
2004, Vol.5, 89-96

ベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーター養成のための「コ・ファシリテーター方式」の事例研究
―「コンビネーション」に着目して―

金　奎卓　九州大学大学院人間環境学府
野島　一彦　九州大学大学院人間環境学研究院

A case study of the co-facilitator method for the training of basic encounter group facilitators with emphasis on combination

Gyutag Kim (*Graduate school of human-environment studies, Kyushu university*)
Kazuhiko Nojima (*Faculty of human-environment studies, Kyushu university*)

In this paper we have attempted to clarify the combination of the facilitation faculties with more than one facilitator in the basic encounter group. We have taken a close look on one actual group case (4 days, 3 nights; 9 sessions and a total of 26 hours; the members were 10 nurse school students, 1 facilitator and 1 co-facilitator) with the purpose of training facilitators in the co-facilitator method. The results were as follows: 1. When working with the group, a combination of 2 was seen 53% of the time, when only one took part and no combination was seen 37%, 11% of the time neither one made facilitating remarks. 2. 80% of the total were a same type combination. The remaining 20% were a combination of different kinds. 3. A combination of "positive activation" and "positive activation" was specially common, 70% of the total. 4. The combination between the 2 was non-conflicting at all instances.

Keywords: co-facilitator method, the training of basic encounter group facilitator, combination

Ⅰ．はじめに

ベーシック・エンカウンター・グループの現代的意義について小柳（1999）は，「脱強迫性の機能」「人と知り合うことを楽しむ場としての機能」「新しい時間消費型のリクレーションとしての機能」「自分を表現し，人から反応をもらう場としての機能」「自己探求・自己受容の容器としての機能」と述べ，『人間と情報のジャングル』で安全に生きる方法を探究する場であると強調した。このことは，ロジャースがエンカウンター・グループを20世紀最大の社会的発明と評価したことと繋がる。

このような重要な意味を求め，人はいろいろなところで行われるエンカウンター・グループに参加している。特に教育現場では，ベーシック・エンカウンター・グループと構成的エンカウンター・グループが行われている。

ところで，グループの展開で重要な役割を持つのは，ファシリテーターであると思われる。このようなファシリテーターの重要性に鑑み，野島（1990）は有能なファシリテーター養成のための６つの学習を勧めている。

その中の１つである『グループ体験による学習』（メンバー体験，訓練グループ体験，コ・ファシリテーター体験）では，特に「コ・ファシリテーター体験」について，近年実践と研究が積極的に行われている（福田・野島，2002：内田・野島，2003：榊・野島，2003）。

福田・野島（2002）は，コ・ファシリテーター体験における「ファシリテーター意識の自覚」，「ファシリテーション行動」の実践と自覚，ファシリテーターの行動の「観察学習」について述べ，「コ・ファシリテーター方式」はファシリテーター養成に有効であると報告している。

内田・野島（2003）は，ファシリテーターとコ・ファシリテーターの「ちがい」に着目して，「コ・ファシリテーター方式」の意義を，「メンバーに安心感を与えたこととファシリテーターとメンバーの仲介者的な役割を果たしたこと」，「グループの理解とファシリテーションに生かすことができること」，「ファシリテーターとしてのスタンスの『ちがい』を認識することで自分を知り，自分であればどうするかを考え，自分の持ち味を生かしたファシリテーター像を築いていくことに役にたつ」と述べている。

榊・野島（2003）は，内田・野島の研究について，「ちがい」の意義について論じているが，グループ・プロセスの中で「ちがい」がどのように表れ，どのように影響を及ぼすのかについて詳細に述べられていないと指摘した。そして，グループ事例について，ファシリテー

ション機能を便宜的に，①「働きかける」「active」という意味での<積極的活性化>，②「待つ」「passive」という意味での<自発性尊重>の2つに分け，複数ファシリテーターが，それらの機能をどのように発揮しているかを浮き彫りにし，そのコンビネーションを調和的・不調和的という視点から考察している。その結果，『積極的活性化と自発性尊重（異なるタイプのコンビネーション）』，『積極的活性化と積極的活性化，自発性尊重と自発性尊重（同じタイプのコンビネーション）』のタイプがあることが明らかになった。

ちなみに，ファシリテーターのコンビネーションの大切さは，かなり前から野島（1980），林（1990）等によって指摘されている。

これらの研究を踏まえて本研究では，グループ事例を提示し，グループ・プロセスにおけるファシリテーターとコ・ファシリテーターのファシリテーション機能のコンビネーションに焦点をあて，どのようなことが実際に起こっているのかを，綿密な事例研究を通して，明らかにし考察したい。

II．グループ事例の構成

1．グループの位置付け

本稿で提示するグループは，某大学付属看護学校の授業の一環として，ある年の3月に学外研修施設にて3泊4日（9セッション，計26時間）の合宿形式で実施された研修型ベーシック・エンカウンター・グループである。看護学校に在籍する2年生(37名)が4グループに分かれて参加し，本研究で発表するのは，そのうちの1グループである。グループ実施要領に記された目的は「自分と他人を知り，新しい対人関係を結ぶ基とする。」，目標は「1.自分を客観的に見つめ，今後の自己のあり方を考える。2.友人を知り，真の友情を築く。」であった。尚このグループは，「コ・ファシリテーター方式」によるファシリテーター養成を兼ねていた。

2．グループ編成

本グループのメンバーは10名（全員女性，20－26歳，本文中はA子～J子と表記，エンカウンター・グループの経験があるものはいない），ファシリテーターは野島（50代男性，大学教員，エンカウンター・グループのメンバー経験及びファシリテーター経験は多数回），金（30代男性，韓国からの留学生，エンカウンター・グループのメンバー経験は複数あるが，ファシリテーターは初めて）であった。

3．スケジュール

1日目は，11：00－12：00がオリエンテーション，14：00－17：00が第1セッション，19：00－22：00が第2セッション。2日目は，09：00－12：00が第3セッション，14：00－17：00が第4セッション，19：00－22：00が第5セッション。3日目は，09：00－12：00が第6セッション，14：00－17：00が第7セッション，19：00－22：00が第8セッション。4日目は，09：00－10：30が第9セッション，10：30－12：00が全体会。

尚，4つのグループのファシリテーターとコ・ファシリテーターは，各セッション終了後，別室に集合してスタッフ・ミーティングを行った。

4．場所

学校から車で1時間ほど離れたところにある宿泊研修施設の一室（20量ぐらいの研修室の半分，板張りの部屋に人数分の座布団を敷く）が使われた。

5．リサーチ

メンバーは，グループ経験前後の「参加者カード」，毎セッション後の「セッション・アンケート」，3ケ月後の「フォローアップ・アンケート」へ記入が求められた。

III．グループ事例の経過

経過の記述に際して，メンバーはM，ファシリテーターはFa，コ・ファシリテーターはCoと略して表記する。尚，『　』はFaの発言，<>はCoの発言，「　」はメンバーの発言を示している。

1．参加前の気持ち

グループ開始前のオリエンテーションにおいてMが「参加者カード」に記した自由記述，グループへの参加意欲度，期待度（7段階評定，1：まったくない～4：どちらでもない～7：非常にある）は以下のとおり。

参加意欲度は平均＝2.7（SD＝0.67）。期待度は平均＝3.3（SD＝0.82）

〔以下，各Mの参加意欲度，参加期待度は文末の数字で記す〕

A子（20才）：何をするか良く分からなくて不安。グループ行動なので楽しく過ごせるか不安。2, 4／B子（26才）：少し楽しみ。グループMが気になる。何をするのか分からないけど，嫌なことをさせられないか不安。2, 2／C子（26才）：私は集団生活，集団行動が好きじゃないので，今回の3泊4日での学習の中でどういうことをするか，少し不安があります。楽しくなればいいなと思います。3, 3／D子（21才）：グループ全員と仲良く，仲間割れせず，4日間過ごせるか心配。4日間も研修する意味がわからない。3, 2／E子（20才）：グループが

どうなるか心配。決まったグループで楽しく4日間過ごせるか不安。2, 4／F子（25才）：何をするか分からないため，不安と期待がある。グループが同級生であるので，班の人がどの人と同じになるかが気になる。2, 4／G子（20才）：授業の一つとして参加する。何をするか分からずとても不安。3泊4日は長い。3, 3／H子（21才）：どんなことをするのかがよく分からないので，少し不安。去年来た先輩がとっても楽しかったと言われていたので，楽しかったら（今年も）いいなと思っています。グループとか，すべて先生の方が決められると聞いているので，難しいことがないといいなと思う。3, 4／I子（20才）：グループへの参加に意味があるかどうか，不安です。早く帰りたいという気持ちです。2, 4／J子（20才）：何をするか分からないので不安です。3, 3。

Co：初めての参加でとても緊張しています。Coという立場も大学生のグループに参加することも初めてです。しかし，みんなの明るい顔を見て，少し安心しました。良い体験ができそうな感じがします。そして，先生の横でいられることも安心感に繋がったかもしれません。ただ，頑張ろうと思う。5, 6。

Fa：Coとは初めて組むので，少し不安でもあるが，何とかなるか。5, 6。

2. グループのプロセス

● 第1セッション（1日目14：00－17：00）

① Faから自己紹介とエンカウンター・グループ（以下，EGと略す）についての説明（目的，方法，態度など）が行われる。しばしの沈黙の後，Faの提案でそれぞれが自己紹介をする。Coは学校，グループの印象，気持ちなどを話す。F子は他の大学卒業,会社を辞めたこと,未来が見える職業を選択することに勇気が必要であったことについて話す。D子「風邪気味で話せない。」，C子「親を6ヶ月間説得して入学した。」，他のMは「まとまらない。」と言う。

②少し沈黙後，F子「自分がどういう風にすればいいか分からない。」と言い出す。FaからEGについて親切な説明が行われる。また，J子から「方法が分からない。」との発言がある。それに対し，Faは「何回も説明したけど…。」と答える。それから，F子は「金さんに聞きたい」と言いながら，出身，日本との違い等を質問する。Coは答えながらも，外国人である自分に焦点が当てられることを意識し，「福岡をどう思いますか。」と逆質問をする。それから，B子がニュージーランド，C子はシアトルでの経験を話す。

［Mの感想］魅力度：平均2.5（SD＝1.35）

〔魅力度は7段階評定，1：まったく感じない～4：どちらでもない～7：非常に強く感じる。以下，ファシリテーターへの感想を記述。各Mの魅力度は文末に数字で記す〕

A子：話題をふってくれる。2／B子：活動的ではない。1／C子：人が発言したことを大切にしてくれる。4／D子：よく分からない。1／E子：色々質問したりするのはいいと思う。2／F子：話を進めようと気を付けて下さっているのは分かるが，私自身どうしてほしいかも分からない。1／G子：普通のメンバーの一員として，思ったことなどを話していた。2／H子：金さんも私達と同じように話されていて先生と言うよりも一員という感じがした。少しでも話しやすいようにうながされていた。4／I子：12人で，みんなですすめていくことがいいのだけど，沈黙がずっと続いていたら，少し切り出すとか，してくれたらいいのかな。4／J子：話を進めてくれる。4。

［Coの感想］魅力度：5

全員の話を聞けてよかった。そして全員の名前を覚えるようになった。質問される時は，私に話題が集中しすぎないように気を使った。でも，3人の話を聞けてよかった。Faはうまく話をつなげている。EGの方法について分からないと言われた時，何回も確認しながらMの感じを分かろうとすることが印象的であった。しかし，Mが息苦しい感じがする時，自分が助けてあげたい気持ちが心の奥にあったかも。

［Faの感想］魅力度：5

異なるもの（ファシリテーター，外国人）としての金さんへの接近が行われたセッションか。

● 第2セッション（1日目19：00－22：00）

①B子が「テーブルを4つ並べてお菓子を置きたい」と提案。Faは『テーブルを置くことには抵抗感がある。』と。それに，他のMの意見が出る。Co＜二人を抜いて，決定することには同意できない。みんなの話が聞きたい。＞と発言。全員が意見を話す。最終的には（机を置かず）床に座り，小さい輪を作ることになる。そして恋愛，実習等の話が出る。

②2～3のサブ・グループが別々に話していることをFaが問題にする。何人かのMも同意する。F子「Mと2年間一緒に過ごしていて，Mの情報を良く知っていて，話しにくい。運動しながら親しくなることはできないか。」と提案。それに対しFaは『協同ですることは運動だけではない。これまで5時間過ごしてきた体験についてでも十分話ができると思う』と発言。Coは＜Fさんが頑張っていることは自分と同じように思う。＞と発言。しばらくF子とFaとの間で話が続く。やがてCoが＜他の人の話も聞きたい。＞と言う。他の人が発言。

［Mの感想］魅力度：平均2.7（SD＝1.06）

A子：話が難しい。2／B子：みんなに意見を求めるなど，気持ちを分かろうとしていた。まだ，考えること

の差があるような気がした。3／C子：まだ，私たち10人と壁があるような気がします。2／D子：ややこしく考えずにもう少し楽に考えたらいいと思う。理屈っぽくていやだ。2／E子：先生達からも何か意見や話題を出してほしい。3／F子：私は，提案を否定された気がした。言われ方もあると思う。でも，確かに私はこの会を一定の形にしようとする傾向があり，それは間違っているのかと思う。1／G子：私たちが感じていることと違うことを感じている。2／H子：一人一人が意見を言えるような場を作っていた。4／I子：みんな沈黙の時は，本当にみんなどうしようって感じていると思う。先生方が少し余裕があったら，話題とかほしいです。4／J子：意見を分かりやすく解釈してくれる。4／

［Coの感想］魅力度：4

Faの主張に協力しようとしていた。また，違う代表が出てきたことで少し心が揺れたような感じ。Faは普通の考えと違ってきたことについて，少しイライラしていると思われる。FaのF子に対して，感情を整理してあげようとする努力が見える。

［Faの感想］魅力度：5

CoはFaと同一方向の発言をする。私はかなり積極的に発言。

●第3セッション（2日目　9：00－12：00）

①B子が「外で運動したい」と提案。みんなで意見を出して，運動することになる。D子より「鬼ごっこか，お金がかからないものを」等の意見が出る。Coが＜みんながどう仲良くするかが大事だ。お金がかかるかかからなくても。＞と発言。Faが『何も決まってないけど，一旦外に出て考えてみよう。』と提案し外に出る。

②外でも同じで，Coが＜フロントに行って聞いてみたら。＞と意見を出す。5－6人が行く。そしてバドミントンをすることになる。CoはF子，FaはD子とペアになる。E子とJ子組が優勝する。みんな楽しんだようである。終了20分前に部屋に戻る。

［Mの感想］魅力度：平均5.3（SD＝0.48）

A子：いっしょにがんばって楽しんでいた。6／B子：楽しそうだった。すごく上手でびっくりした。5／C子：私たちとともに楽しんでいる様子だった。5／D子：なかなか良かったのではないかと思う。6／E子：先生の他の面が見えたような気がする。5／F子：いっしょになって楽しんでもらえて，私も気が楽だった。5／G子：いっしょにバトミントンをした。5／H子：みんなと一緒に楽しんでいたと思います。5／I子：一緒に楽しく過ごされていたと思う。5／J子：いっしょにスポーツをして楽しかった。6

［Coの感想］魅力度：5

Faの『一旦外に出て考えてみよう。』という発言が適切だったと思う。雰囲気がまとまらない時，その状況をきちんと伝えることが大事だと思った。

［Faの感想］魅力度：5

私は積極的には介入しない。

●第4セッション（2日目　14：00－17：00）

①2～3分の沈黙。Coが＜今日，運動してみて意外な面が見えてきた。＞と言い，優勝チームに聞く。何人からか発言がある。Faから『昨日，「みんなのことがあまり分からない」と言ったBさんの発言が気がかりだった。それで，皆さんの看護学校を志望した理由，今の生活と将来について聞きたい。』という提案がある。G子からスタートしてFa, Coまで進む。Faは一人一人に対し，丁寧に質問したり，フィードバックしたりする。そして休憩となる。

②Coが＜Faが1人でMに質問するのは，きついと思われるので，皆さんも一緒にやってほしいけど。＞と提案。するとD子，I子とF子の発言がある。そして，Mから質問が出たりする。

③D子から，FaとCoに共働き，結婚，好きなタイプなどについて質問がある。Faは娘の話と恋愛話など積極的に自己開示している。Coも日本に来た時の話，共働きなど自己開示をする。

［Mの感想］魅力度：平均5.1（SD＝0.51）

A子：まじめ役と言う感じがなくなってきた。5／B子：共通の話題で話せるようになってきた。5／C子：私たちとともに楽しく過ごせていた。5／D子：いい感じだったと思う。6／E子：堅苦しくなくなってきた。4／F子：グループの一員として話してくれてよかった。5／G子：最初先生たちが質問などしなかった。5／H子：一緒になって，テーマについて話をされていた。5／I子：先生達も色々正直に話してくださるので嬉しい。5／J子：質問をしてくれた。6／

［Coの感想］魅力度：5

最初，自分が話題提供しようとしたが，あまり進まなかったことがちょっと気になった。しかし，Faの話題提供はよかったと思う。自己開示がMに十分伝わったと思われる。

［Faの感想］魅力度：6

私は話題の提供。Coが中心になって動く。

●第5セッション（2日目　19：00－22：00）

①Coから＜今日,メンバーとして認めてもらって嬉しかった。＞と発言する。しかし,誰からも反応がなく沈黙。やがてD子がFaに「先生たちの飲み会があったというわさを聞いたけど。」と言い出す。それでCoは酒が弱いことを話す，Faも酒での失敗話をする。また，D子が「合コンしてみましたか。」とCoとFaに聞く。Faは自分の経験について話し，Coは韓国のミーティングについて話す。そして休憩。

②Coが＜さっき，笑い声が聞こえたけど。＞と発言

する。すると，D子による説明がある。やがて　F子の韓国についての質問があり，Coが答える。食べ物と店の話が続く。Coは＜日本の味は。＞とMに聞く。出身地の名物の話となる。

［Mの感想］魅力度：平均5.0（SD＝0.47）

A子：違和感がなく話している。5／B子：実家が近くてびっくりした。ザックバランに話せるようになってきた。5／C子：自然な会話の流れになっている。4／D子：うなづきながら聞いてくれるので，話も話しやすかった。6／E子：先生達の性格や特徴が少し分かった。だいぶ息苦しさもなくなり，和やかな雰囲気だった。5／F子：楽しく会話に参加してもらえて嬉しかった。金先生がいらっしゃることで，異文化を知る良い機会になっている。5／G子：金先生の話を聞いて，韓国では犬を食べると聞いてびっくりした。5／H子：普通に会話に入っていた。5／I子：キムタクさんの話など，国の違いも素直に受け止めて聞いている自分がいます。5／J子：先頭にたって進めていくと言う感じではなく，Mの1人として話に参加していると言う感じだった。5。

［Coの感想］魅力度：5

Faはグループの流れにうまく乗っている様子。自分はちょっと入りすぎたかなと思った。安心感を保つ努力が見える。素直，正直，率直の三つの態度は充実しているよう。

［Faの感想］魅力度：5.5

私は時々発言。Coはリード的に発言を促したり，自己開示をしている。

●第6セッション（3日目　9：00－12：00）

①体育館シューズをみんな持って部屋に来る。B子が「3セッション中1回は運動がしたい。」と発言。CoとFaも賛成する。Coが＜フロントに予約を確認したら。＞と提案。M 2人が行っている間に，Co＜昨日の久し振りの運動で体が痛いけど。＞と言う。何人かが返答する。Faは『好きなスポーツは。』とMに質問。M全員が話す。

②午前中に体育館に行くことになる。2チームでソフトバレーボールをする。

［Mの感想］魅力度：平均5.2（SD＝0.63）

A子：一緒にがんばった。5／B子：野島先生がきびんですごかった。5／C子：楽しそうでした。5／D子：動きが良かった。5／E子：先生達とだいぶ仲良くなったと思う。5／F子：ファシリーテーターだと言う意識が段々薄くなってきている。6／G子：先生が結構反射神経がいいのでびっくりした。5／H子：バレーをがんばっていた。学生に負けてなかった。5／I子：楽しそう。違和感がない。5／J子：一緒に参加できた。6／

［Coの感想］魅力度：6

和やかでスムーズな進行であると思った。運動する時，一生懸命な姿がMに十分伝わったと思われる。

［Faの感想］魅力度：5.5

私は結構スポーツを楽しんだ。

●第7セッション（3日目　14：00－17：00）

①B子が「運動して楽しかったです」と言う。F子は「実習だけで，看護師が適性に合うかどうかは判断できない。それは，人々それぞれ持ち味があるからだ。」と発言する。そこでFaが，『Fさんの持ち味は？』とF子に聞く。「察しがうまいと言われる。」と答える。Coが＜面倒見が良い＞とフィードバックする。他のMからも「遠慮してくれる」等コメントが出る。

②F子の話が終わってから，全員が持ち味について話し，他のMからフィードバックをもらう。Coが最後になり，Faは次のセッションに発言することになる。

［Mの感想］魅力度：平均5.2（SD＝0.63）

A子：特別な立場と感じなくてみんなと一緒の立場な気がする。4／B子：和やかに打ち解けていた。5／C子：一日目に比べると，比較にならないくらい一つの輪ができる。5／D子：みんなの話を真剣に聞いてくれるので嬉しい。6／E子：より先生達を知ることができた。5／F子：印象を一人一人に話してくれて嬉しかった。また，よく観察されているなと思った。6／G子：みんなの3日間を通しての印象を話してくれた。6／H子：3日間でのその人について語ってくれた。5／I子：先生方の印象とか感じ方も色々あって，それを聞けてよかった。5／J子：セッションが上手に流れるようにしてくれた。5

［Coの感想］魅力度：6.5

自分も話したくなったような雰囲気であった。Mの目が正確だなと思った。Mはお互いにもっとフィードバックがあったら良いなと思った。Faは率直に話しているし，Mに対していい印象をもって接している。この場で出た話を話題にすることが上手だと思う。

［Faの感想］魅力度：6.5

私は持ち味に焦点をあてた。私はCoに「頑張り屋さん」とフィードバック。

●第8セッション（3日目　19：00－22：00）

①Faの持ち味について話される。率直な自己開示がなされる。一段落したところで，「金さん，なぜ結婚指輪をしないのですか。」とCoに対して質問が出る。また引き続き韓国の男性についての質問が出る。Coはそれらについて答える。

②Faが『もうそろそろ飛行機が着陸する時間になったような気がする。それでスポットライトをして，心残りがないようにしたい』と提案する。D子，J子，A子は初印象を話題にする，I子はGの感想,B子とF子は自分について話す。I子は「今まとまらないので後で発言する」と言い最後のセッションに発言することになる

［Mの感想］魅力度：平均＝6.2（SD＝0.79）

A子：平等にみんなを見てくれて，意見を聞いてくれる。6／B子：いつも真剣に聞いてくれている。6／C子：ずっと以前から私たちを知っているような感じでやさしく見守ってくれた。7／D子：先生と言うよりは一人の仲間として見れるようになった。7／E子：本当に境界とかなく同じメンバーって感じがしてきました。6／F子：私たちの感情（心情）を表現することを促して，見守ってくれるように思えた。7／G子：真剣に話を聞いてくれた。7／H子：真剣に話を聞いていた。5／I子：真剣に聞いてくださるだけで嬉しい。5／J子：うなづきながら真剣に聞いてくれた。6

［Coの感想］魅力度：6.5

メンバーがFaについて好感を持っている様子。居心地が良かった。みんないろんなことを考えているなと思った。Faの自己開示はレベルが高いし，素直に答えている。Mの話を上手にまとめてくれる。時間を適切に調節する。

［Faの感想］魅力度：6

私はスポットライトを提案。

●第9セッション（4日目　09：00－10：30）

①Faは『心残りがない時間になってほしい。』と発言。H子，G子とE子は自分について発言。F子は「リードしなければと思った。」と言う。

②Faが『昨日，言い残したI子の話を聞きたい。』と発言する。I子は「仲間に入りにくい。」と述べる。D子も「自分も…」と言い涙を流す。15分オーバーして終る。

［Mの感想］魅力度：平均6.4（SD＝0.84）

A子：みんながまとめられないことを代弁してくれた。6／B子：ずっと辛抱強く話を聞いてくれて仲間の中での話しやすい人になっていた。7／C子：よくみんなの話を聞いてくれて，理解してくれた。7／D子：特にありません。7／E子：とても真剣に聞いてくれ，境界がなくなった。7／F子：温かく見守ってくれていた。7／G子：とても真剣にみんなの話を聞いてくれる。7／H子：話を聞いてくれているのがよく分かった。5／I子：すごく私の言葉にできない気持ちを理解してもらえた気がする。5／J子：真剣に話を聞いてくれたし，言葉が足りないところは，解釈してくれた。6／

［Coの感想］魅力度：7

安心感と信頼感があるグループになったかなと思う。個性が良く共存している感じ。時間を伸ばしながら，人に合わせたことが良かったと思う。

［Faの感想］魅力度：6.5

私は司会者的。

3. 参加後の満足度

各Mのグループへの満足度は，7段階評定（1：非常に不満～4：どちらでもない～7：非常に満足）で平均6.4（SD＝0.84）であった。

4. 3ヶ月後のフォローアップ

自分にとっての有意味度（7段階評定，1：まったく無意味～4：どちらでもない～7：非常に有意義）の平均は4.89（SD＝0.93）。

Ⅳ. 考　察

1. 複数ファシリテーターの組み合わせについて

複数ファシリテーターの場合，その組み合わせがとても大事であることは以前から指摘されている（野島，1979）。組み合わせ方については，できるだけ異なった個性の者同士が組む方が良いとされている（安部，1982）。

今回のグループではどうなっているのだろうか。ベテランのファシリテーターと初心者ファシリテーター，指導教官とその学生，日本人と外国人（留学生），50代と30代，といった形で，かなり異なっている。ただ，性別は同じ男性である。

性格特徴という点では，FaとCoで話し合ったところでの共通認識は，Faは基本的には穏やかであるが，時に攻撃的なところがある。Coは基本的に穏やかであり，Faのような攻撃的なところは殆どない。よって，二人の性格特徴は，大部分は共通性があるが，一部では異なっていると言えよう。

尚，二人は同じ研究室の師弟関係にあり，日常的な接触を通して相互に一定の信頼感が築かれていたことは，組み合わせとしては有利であったと思われる。

しかし，FaとCoが師弟関係ということは，Fa・CoとMの関係が，先生と生徒の関係のようになりやすいということを引き起こしていたかもしれない。その検討は今後の課題である。

2. グループ・プロセスにおけるコンビネーションについて

コンビネーションについて論じるにあたり，ファシリテーション機能は，榊・野島（2003）の捉え方（①「働きかける」「active」という意味での＜積極的活性化＞，②「待つ」「passive」という意味での＜自発性尊重＞）で見ていくことにする。そして複数ファシリテーターが，それらの機能をどのように発揮しているか。そのコンビネーションを調和的・不調和的という視点から検討する。

（1）各セッションの検討

第1セッション：①で，Faは自己紹介の提案をしており，＜積極的活性化＞が図られる。Coは特にファシ

リテーティブな発言はしない。この場面では，Faだけであり，コンビネーションは見られない。

②で，F子の「自分がどういう風にすればいいか分からない」，J子の「方法が分からない」に対し，Faは＜自発性尊重＞の応対をする。Coは外国人ということもあり，質問責めになるが，そのようにして一方的になられることを避けるため，逆質問をすることで，＜積極的活性化＞の姿勢をとっている。この場面での二人は＜自発性尊重＞と＜積極的活性化＞という異なる機能をはたしているが，グループは自然に流れており，調和的である。

第2セッション：①で，Mがテーブルとお菓子の提案をしたのに対し，Faは抵抗を示すことを通して＜積極的活性化＞を図っている。またCoも，「二人を抜いて，決定することには同意できない。みんなの話が聞きたい。」と発言し，活性化を図っている。この場面での二人は＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞の機能を果たしているが，最終的には床に座り小さい輪をつくることに貢献しているし，調和的である。

②で，サブ・グループ化していることについてFaは問題にして，Mとのやりとりも活発に行い，＜積極的活性化＞の発言をする。CoもF子と自分との類似性について述べたり，他のMに積極的に参加することを求めて，＜積極的活性化＞を図っている。この場面での二人は＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞の機能を果たしているが，Mの発言を引き出しているし，調和的である。

第3セッション：①で，運動することで意見がまとまったが，何をするか分からない時，Coは「みんながどう仲良くするかが大事だ。お金がかかるかからなくても。」と発し，Faも『何も決まってないけど，一旦外に出て考えてみよう。』と提案し，共に＜積極的活性化＞を図っている。この場面での二人は＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞の機能を果たしているが，グループが外に出ることに貢献しているし，調和的である。

②で，外に出てからCoは，「フロントに行って聞いてみたら」と発言し＜積極的活性化＞を図っている。Faは，特にファシリテーティブな発言はしていない。この場面では，Coだけであり，コンビネーションは見られない。

第4セッション：①で，Faから志望理由と，今の生活，将来について聞きたいという提案があり，＜積極的活性化＞が図られる。Coは，特にファシリテーティブな発言はしていない。この場面では，Faだけであり，コンビネーションは見られない。

②で，CoがFaだけでなく他のMも積極的に関わってほしいと提案し，＜積極的活性化＞を図る。Faは，特にファシリテーティブな発言はしていない。この場面では，Coだけであり，コンビネーションは見られない。

③で，D子から自発的な質問が出て，FaとCoは積極的に自己開示をして，＜積極的活性化＞が図られる。この場面での二人は＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞の機能を果たしているが，これはMの信頼感を高めることになっているし，調和的である。

第5セッション：①で，Mからの質問に対しFaとCoは自己開示をして＜積極的活性化＞が図られる。この場面での二人は＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞の機能を果たしているが，これはMの信頼感をさらに高めることになっているし，調和的である。

②で，F子からの質問にCoは丁寧に答えながら，逆に「日本の味は？」とMに質問をして＜積極的活性化＞を図っている。Faは，特にファシリテーティブな発言はしていない。

この場面では，Coだけであり，コンビネーションは見られない。

第6セッション：①で，B子の運動をしたいとの提案に対し，FaとCoはそれに賛成する形で，＜自発性尊重＞を図っている。この場面での二人は＜自発性尊重＞と＜自発性尊重＞の機能を果たしているが，これはMの自発的行動をサポートすることになっているし，調和的である。

②では，運動となり，二人は特にファシリテーティブな発言はしていない。

第7セッション：①で，F子の持ち味の発言をもとに，Faは「Fさんの持ち味は？」と聞いて＜積極的活性化＞を図っている。この場面での二人は＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞の機能を果たしているが，これはMの自己開示的発言を引き出し，調和的である。

②では，二人は特にファシリテーティブな発言はしていない。

第8セッション：①で，Faは積極的に自己開示し，＜積極的活性化＞が図られる。CoもMの質問に率直に自己開示し，＜積極的活性化＞を図っている。この場面での二人は＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞の機能を果たしているが，これはMの自己開示的雰囲気を高めることになっているし，調和的である。

②で，グループの終りが近づいてきたこともあり，Faはスポットライトを提案し，＜積極的活性化＞を図っている。CoはFaの提案に乗りながら，Mを見守る姿勢をとり，＜自発性尊重＞を図っている。この場面での二人は＜積極的活性化＞と＜自発性尊重＞という異なる機能を果たしているが，これはMの積極的な自己開示を引き出しているし，調和的である。

第9セッション：①で，Faが「心残りがない時間になってほしい」と発言し，＜積極的活性化＞が図られる。Coは特にファシリテーティブな発言はしない。この場

面では，Faだけであり，コンビネーションは見られない。

②で，Faが「昨日，言い残したI子の話が聞きたい。」と発言し，＜積極的活性化＞を図っている。Coは特にファシリテーティブな発言はしない。この場面では，Faだけであり，コンビネーションは見られない。

（2）全体を通しての検討

1）全体を通してみると，（グループ展開が内容的・時間的に区切られる）「ひとまとまりの《場面》」で，二人のコンビネーションが見られたのは10場面（53%），どちらか一人のみの介入だけでコンビネーションが見られなかったのは7場面，（37%），二人ともファシリテーティブな発言をしていないのが2場面（11%）であった。

これからすると，グループの《場面》の半分くらいは，ファシリテーターは共同してグループにファシリテーティブに関わっていることになる。また，グループの《場面》の1/3くらいは，一人のみのがグループにファシリテーティブに関わっていることになる。さらに，グループの《場面》の1割くらいは，二人ともグループに（意図的にファシリテーティブという意味では）関わっていないことになる。

2）二人のコンビネーションが見られたのは10場面であるが，そこには4つのコンビネーション・タイプが認められた。第1は，（FaとCoが）＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞で7場面（70%）である。第2は，＜自発性尊重＞と＜自発性尊重＞で1場面（10%）である。第3は，＜自発性尊重＞と＜積極的活性化＞で1場面（10%）である。そして第4は，＜積極的活性化＞と＜自発性尊重＞で1場面（10%）である。

これらからすると，第1と第2の「同じタイプのコンビネーション」が8割，第3と第4の「異なるタイプのコンビネーション」が2割ということになる。一般的には，ファシリテーターの「相補性」ということが強調されるが，この結果から見る限りは，意外と「異なるタイプのコンビネーション」が少ないと言えよう。

3）ちなみに，榊・野島（2003）では，4つのコンビネーション・タイプのうち3つは見られているが，＜積極的活性化＞と＜積極的活性化＞は見られなかったとしている。しかるに，このグループではそれが7割（70%）を占めている。ということは，2つの事例ではコンビネーションのあり方が全く違っていたということになる。つまり，今回のグループは（＜自発性尊重＞より）＜積極的活性化＞がきわめて多いのが特徴であると言えよう。

どちらが良いかは一概には言えないが，参加後の気持ちの「満足度」を見ると，榊・野島（2003）では平均6.73（SD＝0.33），本研究では平均6.4（SD＝0.84）となっている。

4）二人のコンビネーションを調和的・不調和的という視点から見ると，榊・野島（2003）では1つのセッションで不調和的であったことが報告されているが，このグループについてはすべて調和的である。

このことからすると，二人のファシリテーターは殆ど調和的であり，不調和的というのはごく少ないのかもしれない。

付　記

本論文の一部は日本人間性心理学会第22回大会で発表したものである。当日，コメントを頂きました文教大学渡邊忠先生にお礼を申し上げます。本論文の作成にあたり，御指導頂きました九州大学大学院人間環境学研究院の田嶌誠一教授に深く感謝致します。

引用文献

安部恒久　1982　エンカウンター・グループにおけるファシリテーターの研究．中村学園研究紀要，15，1-15.

福田　麗・野島一彦　2002　ベーシック・エンカウンター・グループの「コ・ファシリテーター体験」に関する事例研究的検討．九州大学心理学研究，3，167－174.

林もも子　1990　エンカウンター・グループにおけるコ・ファシリテーターの関係性の重要性．心理学研究，61(3)，184-187.

野島一彦　1979　私のグループ体験（1）．九州大学教育学部心理教育相談室紀要，5，70-79.

野島一彦　1980　エンカウンター・グループにおけるファシリテーターの事例研究．久留米信愛女学院短期大学研究紀要，3，41-67.

野島一彦　1990　グループ・アプローチ．小川捷之・鑪幹八郎・本明寛編集，臨床心理学を学ぶ，金子書房，194-205.

小柳晴生　1999　エンカウンター・グループの現代的意義．野島一彦編集，現代のエスプリ 385グループ・アプローチ，至文堂，187-195.

榊　祐子・野島一彦　2003「コ・ファシリテーター方式」によるベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーションに関する事例研究――＜積極的活性化＞と＜自発性尊重＞のコンビネーションを中心に――．九州大学心理学研究，4，315-323.

内田和夫・野島一彦　2003　ベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーター養成における「コ・ファシリテーターの方式」の意義――「ちがい」に着目して――．九州大学心理学研究，4，75-81.